

(様式1)

平成28年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1) 自学自習 (2) 規律ある自由 (3) 体力の増進
(2) 現状と課題	目指す人間像として「もって生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」を掲げ、知・徳・体の調和がとれリーダーとして社会に貢献できる人材育成を目指した教育活動を日々展開している。単なる知識修得ではなく、自ら考え自ら課題解決ができる生徒の育成を目指している。しかしながら、年々精神的に不安定な生徒が増えてきているので、それらの生徒を支援する体制を整えていく必要がある。また、高い志を掲げ困難に挑戦していくことができる生徒を育てることで、地域の中心校としての期待に応えていく必要がある。
(3) 重点目標	1 確かな学力を育成します 2 豊かな人間性と社会性を育成します 3 キャリア教育を推進します 4 重点校としての基盤整備をします
(4) 結果の公表	本校ホームページのサイトに、保護者による「学校評価アンケート」、生徒による「授業評価アンケート」、学年・分掌に関して教員による「自己評価」の結果を掲載している。また、学校関係者評価として「学校評議員会」の議事録及び本報告書を掲載する。

学校整理番号	9
学校名	青森県立弘前高等学校
全日制の課程	校舎・分校

自己評価実施日	平成29年 1月13日(金)
学校関係者評価実施日	平成29年 2月 6日(月)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員(5名) 有識者同窓生 1名、卒業生保護者 1名 有識者教育関係 2名、現PTA役員 1名

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	確かな学力を育成します	授業第一主義を徹底する 「学び」への姿勢と学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る 主体的に学び、考える授業を構築し、論理的思考力・応用力を育成する	教員の授業力向上や生徒の主体的学習の育成のため、研究授業、互見授業、校内研修等を行った。学習習慣確認のための生徒面談や基礎学力定着のための教科指導に努めてはいるが、未だ改善の余地はある。	B	授業においては教員と生徒の双方向のやりとりがしっかりとされている。生徒が主体的に学べるような授業を展開していることは十分評価できる。研修や自己研鑽を通して、さらにレベルアップすることを期待したい。	教員の自己評価によると、自分自身の教科研修及び教科内研修に対する評価が昨年度より減少していた。生徒を引きつける授業を行うためには、一人一人が教科指導力を向上させるという気概を持つ必要がある。
2	豊かな人間性と社会性を育成します	自律の精神を培い、基本的生活態度を確立させ部活動、自治会活動、ボランティア活動を通して逞しい心と体を養う 文武両道を追求し、何事にも失敗を恐れず果敢に挑戦させる 伝統・文化を尊重する姿勢を育み、異文化への理解を図る 思い遣りの心を育てることを通して、リーダーとしての資質を涵養する	本校伝統行事である弘高ねぶたを経験させることで、協働の楽しさや地域文化を尊重することの大切さを学ばせることができた。また、様々な特別活動を通して、人を思い遣ることの大切さを考えさせることができた。文武両道については、容易に実践できるものではないが、多くの生徒が高校生活の目標として日々努力している。	A	学力を高めることと並行して、学習以外の活動にも夢中になれるものを持ってほしい。部活動、社会活動、習い事等それはいずれであってもよいと思う。高校生のこの多感な時期に、人間性や社会性をしっかりと身につけて欲しいと考える。広い意味での文武両道を実践してくれることを望む。	伝統行事である弘高ねぶたを核とした本校の人間教育は、良い形で継承されてきている。しかしながら、総合的な学習に関しては改善の余地は未だあると思われる。PDCAサイクルの実行で、年々良いもの模索し続けていく必要がある。
3	キャリア教育を推進します	三年間を見通した進路計画の立案と実践 「生きる」「働く」「学ぶ」をつなぎ、社会へどう貢献するかを考えさせる 自分を生かせる大学学部の研究を行わせる 自ら進路を決定できる態度を育成し、決めた目標に邁進させる	総合的な学習を通して、生徒は自分の生き方研究や学部学科研究に主体的に取り組んでいる。進路計画については、これまで以上にキャリア教育を推進させていくことができるよう改善していく必要がある。	B	卒業後の進路だけにとらわれるのではなく、生きることや働くことをしっかり考えた上で自分の将来を考えられるような生徒を育成してほしい。	従来の形を大幅に変えていくことは中々容易なことではない。これまでにやってきたことを漠然と引き継いで実施するのではなく、指導の観点としてキャリア教育をしっかりと意識することが必要である。
4	重点校としての基盤整備をします	青森県教育改革への対応と事業の実践 医学を志す高校生支援事業の充実を図る 国への教育改革への対応を通しての授業改善を行う	これまで拠点校として実施してきたことの他に、新たに重点校として貢献できる方策を見出し、そのための準備を整えておく必要がある。	B	国や県の教育改革に対応できるように準備を整えておいてほしい。改革に対応するためには、教職員の意識改革が最優先である。	重点校としてやるべきことについて、具体的な方策を決めていく必要がある。

(11) 総括	本校生徒は、自分たちが伝統校の一員であることを十分理解しており、それを誇りにも感じている。本校は生徒の自主性を育てることに力を注いでおり、生徒もまたそれに応え主体的な行動ができるように育っている。また、本校生徒は進路達成に向けて最後まで努力を継続できる。そして、本校教員もそれに向けて日々努力を重ねているが、指導方法に関しては未だ未だ改善の余地がある。学習に向かう主体性、課題解決能力、表現力等の育成は、従来型の教え込むだけのやり方では対応できない。自己研鑽や全体研修を通して、我々が真の指導力を身につけていく必要がある。
---------	---